

Evaluation of Public Lavatories in Kanazawa City

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/20079

金沢市の観光地における公衆トイレの快適性評価

山岸 雅子・森 郁恵*

Evaluation of Public Lavatories in Kanazawa City

Masako YAMAGISHI・Ikue MORI

はじめに

これまでの公衆トイレは、汚い・臭い・暗い・怖いというイメージが強く、利用者からも地元住民からもあまり歓迎される施設ではない。特に女性は不潔で危険な公衆トイレはできるなら利用したくないと考えている。設備の盗難・落書などの破壊行為、設備の故障の未修理・ごみの散乱などの管理の不徹底、非行の場となるなどの他、狭すぎる・暗すぎる・設備が不十分など、ほとんどの公衆トイレは設置場所・面積・設備・管理などの面で多くの問題がある。

その要因は、第一には公衆トイレの設置や管理に関する法律の整備が十分ではなく、国として特に基準が定められていないため、各自治体に任せられた形になっており、その水準に差があることである。

第二に、設置や管理の担当部局が自治体によってまちまちであり、幾つかの部局に分かれている場合もあり、総合的に管轄する構造になっていないことである。金沢市の場合公衆トイレの管理を担当する部局は、公園の公衆トイレは「緑と花の課」、近江町市場の中の公衆トイレは「生活環境課」、玉泉湖畔の公衆トイレは「観光課」というように、設置場所によって異なっている。このように一つの部局で担当していないことが、総合的なトイレ行政を進めるうえでの障害にもなっているのであろう。

さて、トイレに関する研究は健康との関わりについての研究やあるいは設備や汚水処理、ま

た歴史や風俗など幾つかの分野でなされているが、研究対象のトイレ自体がタブー視されていることもあり、あまり人目にふれることがなく、行政側も後まわしにすることが多い。特に利用者から見たトイレの快適性や安全性に関しては、その資料さえほとんどないのが現状である。そのこともあり不潔で危険な公衆トイレが改善されることが少ないといえる。

しかし、魅力ある都市空間を創造するためには、公衆トイレについても快適で美しく安全な場であればならない。女性でも子どもでも、高齢者でも身障者でも快適に安心して利用できる施設にする必要があろう。最近では、美しい公衆トイレづくりに積極的に取り組み始めた自治体もあり、イメージを一新するような幾つかの事例がみられるようになった。中には観光客を呼ぶためその設備の豪華さや奇抜なデザインのものも見られ、利用者が真に求める公衆トイレではないと思われるものもあるが、公衆トイレを快適で美しい場所にしようという関心が生まれてきたことは確かである。

このように公衆トイレの清潔さ・快適性が求められるようになった背景には、一般家庭の居住水準が向上したことがあるだろう。昭和63年の住宅統計調査（総務庁）によると、最低居住水準未満の世帯は全国で9.5%と、前回（昭和58年）の11.4%をさらに下まわり、また、居室数、延べ面積とも、持ち家だけでなく借家においても平均規模が拡大している¹⁾。住宅規模が拡大するにつれ、寝室やLDKスペースから

水まわりスペースの充実へ目が向けられるようになってくる。下水道の普及によるトイレの水洗化や、洋風便器の普及、近年では温水洗浄式やその他様々な機能をもつ設備の普及も著しく、トイレは不潔であるという考えから居室として考える傾向になってきた。

このように、住宅のトイレの居住性が向上したものの、公衆トイレは旧態依然たる例が非常に多い。女性や子ども、高齢者、身障者、妊婦、トイレ利用頻度の高い疾患をもつ人々などが安心して外出できるためには、公衆トイレを快適で安全な場所にしていかなければならないだろう。

そこで本研究ではこのような公衆トイレの改善をめざすべく、公衆トイレとその利用者に対して調査を実施し、利用実態を把握し、利用者の視点からみた公衆トイレの評価と問題点を明らかにすることにより、快適な公衆トイレのあり方を探るための基礎的資料としたい。

II. 調査概要

1. 調査対象とした公衆トイレ

本報では特に金沢市の観光地の公衆トイレとその利用者を対象に行った調査結果について述べる。ここで公園や道路沿い、商店街などではなく観光地の公衆トイレを選定したのは、次のような理由による。第一に観光地は人が多く集まり、好むと好まざるとにかかわらず利用せざるをえない実情があるので設置の必要性が高いため、第二に多くは従来の不衛生なトイレであるものの、中には観光地に立地するため特に外観を配慮したり、観光地のイメージを意識して広く美しいトイレにしたり、管理に力をいれているものも見られるためである。実際金沢市では伝統的な町並みを保全したり、兼六園の景観と調和させるために公衆トイレの改善がすすめられている。

本報では公衆トイレを自治体や公共団体の管理のものとは限定せず、観光地の実態から公共施

設内のトイレ、寺社のトイレなど公共性の高いトイレも調査の対象とした。

2. 観察調査の概要

まず、金沢市において観光客が多く訪れると思われる観光地の公衆トイレの観察調査を行った。調査は、男性用・女性用の便器の種類と数を把握し、更に観察者による主観評価を行った。主観評価は、次の視点による。

- ①トイレ全体及びブース内の総合的な広さ
- ②洗面台付近・ブース内・小便器付近の総合的な明るさ
- ③便器付近・洗面台・床などの総合的な汚れ
- ④臭い
- ⑤設備
- ⑥清掃の状況、設備の破損・故障状況など管理
- ⑦景観との調和
- ⑧トイレの場所のサインや、男女のサインのわかりやすさ。

観察調査を行ったのは、金沢市内の公衆トイレ74カ所、調査時期は平成4年10月31日～11月29日である。

3. 利用者数調査の概要

公衆トイレで一番に問題となるのが便器の個数であろう。しかしこれは一律何個と決められるものではなく、立地条件や利用者の数、利用者が一時に集中するかなどによって必要な個数が異なる。そこで、公衆トイレの1日の利用者数を時間を追って調査した。

調査を行ったのは、兼六園内の6ヶ所、長町2ヶ所、寺町1ヶ所の計9カ所の公衆トイレ、及び公共性の高い施設内トイレである。調査日は兼六園6カ所は平成4年11月4日（水・晴）、『長町御園』は平成4年11月5日（木・晴）、『長町緑地』は平成4年11月6日（金・雨）、『妙立寺』は平成4年10月21日（水・くもり後雨）である。

4. 利用者に対するヒアリング調査の概要

利用者数調査を実施した公衆トイレ利用者に対して、利用した直後に利用した公衆トイレの評価をさき、また公衆トイレの和洋の志向、有料トイレについての意見を求めた。

調査人数は、各々の公衆トイレ1日の利用者数調査によって得られた人数の1割を目標にした。男女の数は半々となるようにし、また様々な年齢層の意見を聴取したいと考え、可能なかぎり各年齢層のバランスがとれるように配慮した。しかし、実際には年代に関しては20~30代の利用が少なく偏りが生じた。従って、年代のバランスは実際の利用者による影響をやや受けてはいるが、調査対象者は実際の利用者の男女や年齢層の比率とは異なっている。

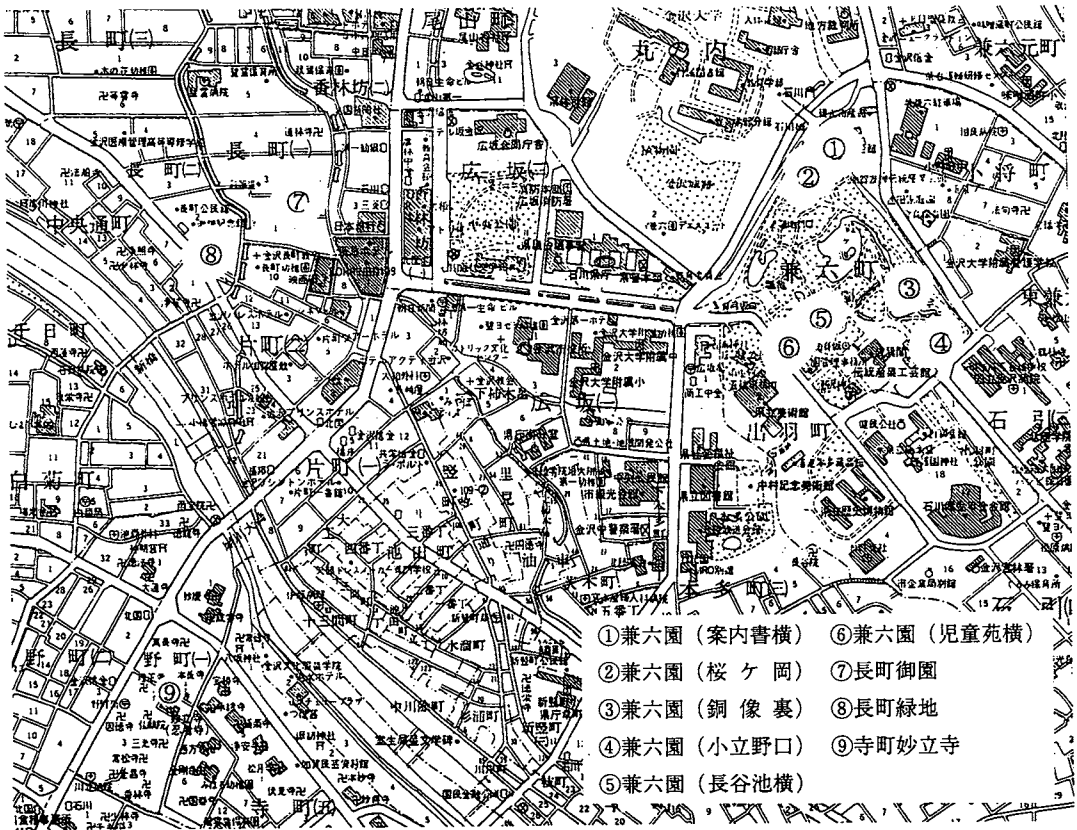
調査は平成4年10月10日~11月25日に行った。以下調査結果と考察について述べる。

表1 調査対象公衆トイレの設備

		男子トイレ				女子トイレ			身障者	
		小便器	和式大便器	洋式大便器	洗面台	和式大便器	洋式大便器	洗面台	洋式大便器	洗面台
兼六園	案内所横	2	1	—	1	1	1	—	—	
	桜ヶ岡	5*	2	1*	2	4	1*	2	—	
	銅像裏	5*	2	1*	2	4	1*	2	1*	
	小立野口	3	2	—	1	4	—	1	—	
	長谷池横	3	1	—	1	2	—	1	—	
長町	長町御園	2	1	1	1	2	1	1	—	
	長町緑地	3*	1	1	2	2	1	2	1*	
寺町	妙立寺	3	1	—	1	3	—	1	—	

*はその内の1基に手すりが設置されていることを示す。

図1 調査対象公衆トイレの所在



- ①兼六園 (案内所横)
- ②兼六園 (桜ヶ岡)
- ③兼六園 (銅像裏)
- ④兼六園 (小立野口)
- ⑤兼六園 (長谷池横)
- ⑥兼六園 (児童苑横)
- ⑦長町御園
- ⑧長町緑地
- ⑨寺町妙立寺

Ⅲ. 兼六園の公衆トイレの利用実態と評価

兼六園の公衆トイレは、石川県兼六園管理事務所が管理している公衆トイレが6ヶ所、成巽閣（財団法人）が管理している公衆トイレが1

ヶ所ある。本報では石川県が管理する園内の6ヶ所の公衆トイレを対象とした。

これらは、案内所横の公衆トイレ（以下『案内所横』と略記する。他も同様。）『桜ヶ岡』『銅像裏』『小立野口』『長谷池横』『児童苑前』

図2 兼六園1日の利用者数

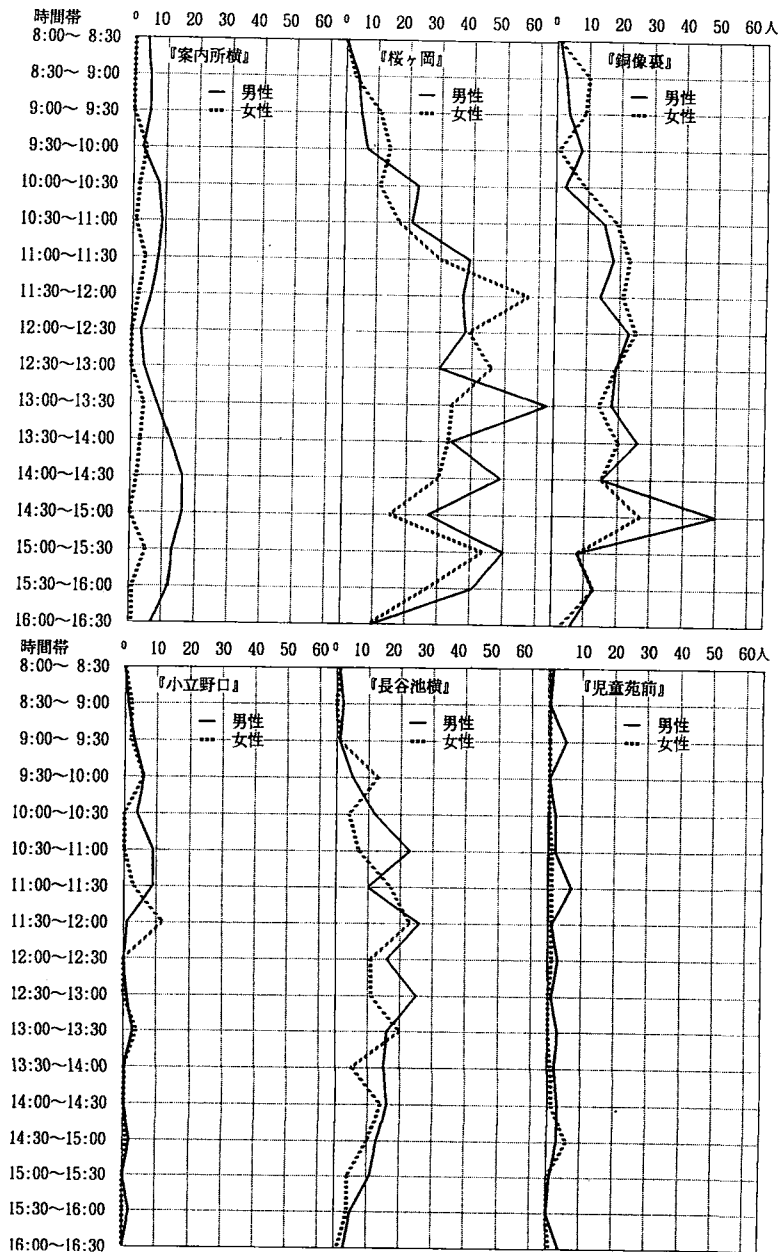


表2 観察調査による評価

順位	調査場所 人数・ヒアリング調査実施 ↓	観察調査結果								5段階評価点 合計	順位	調査場所 人数・ヒアリング調査実施 ↓	観察調査結果								5段階評価点 合計
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	
1	中村記念美術館	4	5	5	5	5	5	5	5	39		尾山神社	4	5	2	2	4	3	2	5	27
2	歴史博物館1F(1)	5	5	5	5	5	5	5	3	38	40	江戸村	3	5	3	2	3	3	5	3	27
6	伝統産業工芸館	5	5	4	5	4	5	5	4	37		箔座(1)	3	4	4	3	3	3	1	3	27
	天徳院	5	4	4	5	4	5	5	5	37		兼六園(桜ヶ岡) ★	4	3	2	2	4	4	5	2	26
	卯辰山工芸工房本館2F	4	4	5	5	5	5	5	4	37		石川県観光物産館B F	3	2	3	3	4	4	3	4	26
	作田金銀製箔	3	4	5	5	5	5	5	5	37	46	妙立寺 ★	3	4	3	3	3	4	5	2	26
8	野村家(新)	4	5	5	5	5	5	3	4	36		長町御園 ★	3	3	2	2	3	3	5	5	26
	箔座本館	3	3	5	5	5	5	5	5	36		野村家(旧)	2	2	4	4	3	4	5	2	26
10	歴史博物館1F(2)	4	4	5	4	4	5	5	4	35		壇風苑本館	3	3	4	1	3	3	5	4	26
	寺島蔵人邸	3	3	5	5	4	5	5	5	35		主計町緑水園	2	4	1	3	4	1	5	5	25
14	歴史博物館2F(1)	3	5	5	3	5	5	5	3	34	49	卯辰山公園(川岸園)	3	1	3	2	4	2	5	5	25
	民俗文化財展示館	4	4	5	5	3	5	3	5	34		東山河岸緑地	3	5	1	3	4	1	5	3	25
	志摩	3	3	5	5	4	5	5	4	34		兼六園(案内所横) ★	3	3	2	3	4	2	5	2	24
	卯辰山工芸工房本館2F	3	3	5	5	5	4	5	4	34	52	本多蔵品館	3	1	3	2	3	4	3	5	24
17	能楽堂(1)	5	4	4	3	4	4	5	4	33		近代文学館	2	3	3	3	3	4	3	3	24
	歴史博物館2F(2)	3	4	5	5	4	5	4	3	33	54	外濠公園(大手町広場)	3	2	2	3	4	3	5	1	23
20	大樋ギャラリー	3	4	5	5	5	5	5	1	33		箔座(2)	3	4	3	3	3	3	1	3	23
	成巽閣	4	4	4	3	4	5	4	4	32		外濠公園(フラワーガーデン)	3	1	2	3	4	2	5	2	22
	歴史博物館屋外	4	3	4	3	4	4	5	5	32	58	東山小公園	3	3	2	3	3	2	5	3	22
22	卯辰山工芸工房別館1F	3	3	4	5	4	5	4	4	32		室生屋生碑	3	3	3	2	3	2	3	3	22
	能楽堂(2)	3	4	4	3	4	4	5	4	31		卯辰山公園(工芸の森)	3	3	2	4	2	1	5	2	22
25	兼六園(銅像裏) ★	3	5	4	4	3	3	5	4	31		加賀友禅伝統産業工芸館1F	3	3	2	1	4	2	3	3	21
	石川護国神社	3	4	4	5	2	4	4	4	30		卯辰山公園(花菖蒲園)	2	2	1	3	2	1	5	5	21
	加賀友禅伝統産業工芸館B F	3	3	4	1	4	5	5	5	30	63	近江町	2	5	1	2	3	2	3	3	21
31	玉泉湖湖畔	4	2	5	5	4	3	2	5	30		大乗寺(墓地横)	2	3	2	3	3	2	2	4	21
	石川観光物産館1F	3	3	3	3	4	4	4	5	29		兼六園(長谷池横) ★	1	1	3	5	2	3	2	4	21
	石川観光物産館3F	3	4	3	3	4	4	4	4	29		兼六園(児童苑前) ★	3	2	3	3	2	2	2	3	20
	彦三緑地	3	4	3	3	3	3	5	5	29	67	卯辰山公園(玉兎が丘)	3	5	2	3	1	1	2	3	20
	卯辰山工芸工房別館2F	3	2	4	3	4	5	4	4	29		卯辰山公園(展望台)	3	3	2	4	2	1	5	2	20
	中央公園(交番横)	5	5	2	2	5	3	3	4	29		長町緑地 ★	2	1	2	3	3	2	5	2	20
	老舗記念館	3	3	4	4	3	4	4	4	29	68	銭屋五兵衛遺品館	3	2	3	1	1	3	4	2	19
37	能楽堂別館	2	3	5	5	3	4	3	3	28	70	玉泉園	1	1	3	3	1	3	2	4	18
	歴史博物館1F(3)	3	4	2	3	5	4	5	2	28		椿原神社	2	3	2	3	2	2	2	2	18
	石川県観光物産館2F	3	2	3	3	4	4	4	5	28	72	兼六園広坂休憩所	1	1	3	3	1	3	1	3	16
	卯辰山公園(運動場)	4	2	2	4	5	1	5	5	28		大乗寺(忠霊塔前)	3	1	1	2	2	1	3	3	16
	大円寺	3	3	4	4	3	4	3	4	28	73	兼六園(小立野口) ★	1	1	3	3	2	3	1	1	15
壇風苑休憩館	3	4	4	2	3	4	3	5	28	74	中央公園(滝横)	3	2	1	2	1	1	2	2	14	

①広さ ②明るさ ③汚れ ④臭い ⑤設備 ⑥管理 ⑦外観 ⑧わかりやすさ

である（図1参照）。このうち『案内所横』『児童苑前』以外は有料区域内にあり、兼六園の入園者のみが開園時間内に利用できる。

各々の公衆トイレの設備を表1に、兼六園を含む金沢市内74ヶ所の公衆トイレに対する観察調査の評価を表2に示す。

1. 1日の利用者数

兼六園の6ヶ所の公衆トイレの1日の利用者総数は2,014人にのぼる。この6ヶ所の中で最も利用者の多いのは『桜ヶ岡』（図2）で、1日に利用した人数は898人、次いで多いのが『銅像裏』で481人、『長谷池横』345人となる。男女の比率は、『案内所横』『児童苑前』では男性の割合が8割程度と多いが、『桜ヶ岡』『銅像裏』『小立野口』『長谷池横』では男性が5～6割、女性が4～5割となり、やや男性が多いもののほぼ同じ割合である。

『桜ヶ岡』は兼六園入口や土産物店近くに位置し、トイレのサインも見やすいために利用率が高い。11時から16時まで30分当たり利用者の男女合計で60人を超し、ピークは男性で13時から13時30分の63人、女性では11時30分から12時の57人となる。

男子大便器は3基（和式2，洋式1），男子小便器は5基，女子便器は5基あるが，相当の混雑が観察された。また，女性の便所占占有時間は男性の3倍かかるという報告があるので²⁾，男女数がほぼ同じで，便器数も同数（男性大便器を加えると男性の方が多くなる）であることが，より女性の混雑を招いているといえる。

次いで多いのが『銅像裏』で，1日の利用者総数が481人（男性40.6%：女性49.3%）である。ピークは男女とも14時30分～15時で，男性50人，女性27人である。『銅像裏』は兼六園の団体入口付近に位置するため，団体観光客の利用が多く一時に集中することも多いため，便器数に配慮が必要であろう。ここには身障者用トイレがある。この利用は1日で9人で全て女性である（前述の利用総数に含まれる）が，車椅

子使用者などのハンディキャップ者はいなかった。女子トイレ入口にあるため女子トイレ混雑時に利用しやすいと思われる。また，男子・女子・身障者のトイレサインが離れた場所から判別しにくく，入口を間違えた人が15人いた。景観との調和をはかった外観であり，その点は非常に評価されるが，表示は明瞭にすべきであろう。

『長谷池横』の1日の利用者総数は345人（男性57.7%：女性42.3%），利用が多いのは男性・女性とも11時30分～12時までで男性26人，女性23人である。総数は『桜ヶ岡』『銅像裏』と比べ少ないが，ピーク時には比較的多い。『長谷

図3 『桜ヶ岡』平面図

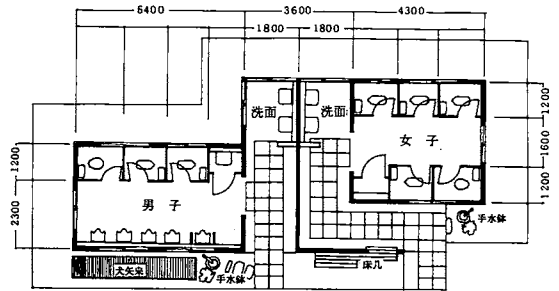
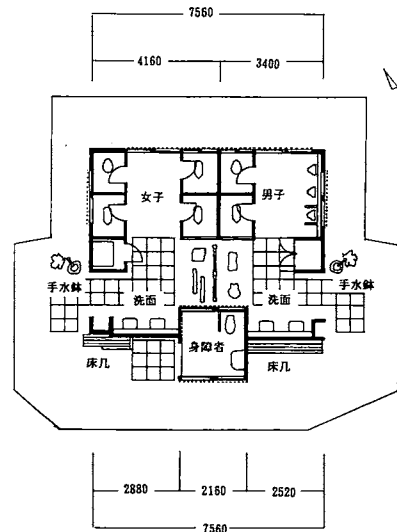


図4 『銅像裏』平面図



池横』では女子トイレが満員で男子トイレを利用した女性も見られたように、便器数（女子便器は2，男子小便器3，男子大便器1）が問題である。男女とも利用人数の割合に非常に少なく，特に女性便器の不足がみられる。

園内で最も利用の少ないのが『小立野口』で利用総数は71人である。ここはトイレの場所がわかりにくいこと，暗く狭いなどのため利用者，特に女性に敬遠されがちである。利用人数の割

図5 『小立野』平面図

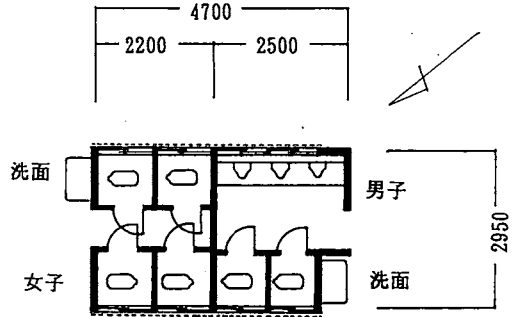


図6 兼六園利用者による評価平面図

	兼六園 『案内所横』				兼六園 『桜ヶ岡』				兼六園 『銅像裏』			
	全体	平均値 (6)	男性 (4)	女性 (2)	全体	平均値 (91)	男性 (47)	女性 (44)	全体	平均値 (48)	男性 (26)	女性 (22)
広 さ		3.0	3.0	3.0		3.7	3.8	3.7		3.6	3.1	4.1
明るさ		2.2	2.3	2.0		3.5	3.7	3.3		3.9	3.4	4.5
汚 れ		3.0	3.0	3.0		3.8	4.2	3.3		4.1	4.5	4.0
臭 い		3.8	4.0	3.5		3.9	4.1	3.6		4.3	4.1	4.5
設 備		2.7	3.0	2.0		4.3	4.4	4.2		4.5	4.6	4.4
管 理		4.0	4.0	4.0		4.2	4.2	4.2		4.3	4.4	4.2
外 観		4.7	4.5	5.0		4.8	4.7	5.0		4.9	4.8	4.9
わかりやすさ		2.5	2.8	2.0		4.3	4.0	4.7		4.0	3.7	4.5
総 合		3.2	3.3	3.1		4.1	4.1	4.0		4.2	4.0	4.4

	兼六園 『小立野口』				兼六園 『長谷池横』				兼六園 『児童苑前』			
	全体	平均値 (13)	男性 (8)	女性 (5)	全体	平均値 (42)	男性 (23)	女性 (19)	全体	平均値 (4)	男性 (2)	女性 (2)
広 さ		2.1	1.9	2.4		2.1	2.3	1.9		1.5	1.0	2.0
明るさ		1.8	1.6	2.2		1.8	1.6	2.0		2.0	2.5	1.5
汚 れ		3.7	3.3	4.4		3.0	3.3	2.6		4.5	5.0	4.0
臭 い		4.0	3.6	4.6		3.3	3.3	3.3		4.8	5.0	4.5
設 備		3.1	3.0	3.2		2.8	2.8	2.8		1.5	1.0	2.0
管 理		3.8	3.4	4.4		3.3	3.5	3.1		4.3	4.0	4.5
外 観		3.8	3.6	4.2		3.7	3.5	3.9		3.3	4.0	2.5
わかりやすさ		2.7	3.5	1.4		4.0	3.7	4.4		3.3	3.0	3.5
総 合		3.1	3.0	3.4		3.0	3.0	3.0		3.1	3.2	3.1

りには便器の数は多い（女子便器4基，男子小便器3基，男子大便器2基）。従って，便器の数を減らして全体にゆったりとした設計にするなどの改善が必要であろう。

2. 利用者による評価

兼六園の6ヶ所の公衆トイレ利用者による，利用したトイレの評価について述べる（図6）。

評価は，観察調査の概要で述べた項目と同様で，各評価項目について5段階（1. 悪い 2. やや悪い 3. 普通 4. やや良い 5. 良い）による。各評価点の平均値を図6に示す。

『案内所横』は6人（男性4人・女性2人）から意見を聴取した。この場所は兼六園入口でタクシーが客待ちに並んでいる横に立地しており，利用者数調査でみたように特に女性の利用者が少ない。男性の利用者のほとんどはタクシー運転手であり，観光客の利用は少ない場所であるため，調査数が少なくなった。

評価の平均値をみると，男女ともに「外観」の良さを評価し，「明るさ」と「わかりやすさ」に問題があると感じている。照度計により照度を測定したところ（11月30日 16時40分 晴，ヒアリング調査日と異なる），内部は100～200LX⁹⁾で比較的明るい，入口付近は20～30LXと暗い。特に女性の「明るさ」に対する評価が低い，入口が暗いことが不安感につながったのであろうと思われる。「わかりやすさ」については，タクシーが客待ちで並んでおり，トイレ自体の存在や入口の場所がわかりにくいことが大きく，また男女のサインも目につきにくい，ため，比較的悪い評価となっている。「外観」は小規模ながら寄棟の和風建築で，格子をつけるなど景観との調和をはかっていることが評価されたのであろう。

『桜ヶ岡』は次に後述の『銅像裏』とともに兼六園の公衆トイレの中では評価の高いトイレである。前述のように1日の利用者数が最も多く混雑している。調査数は91人（男性47人・女性44人）である。評価は「外観」の良さが特に

評価され，また「設備」「わかりやすさ」「管理」も比較的高い評価が得られた。他の項目も総じて良い評価である。「汚れ」「臭い」の評価では男女で差がみられ，女性の方が評価が低い。他の場所でもこの傾向が見られる。トイレトーパーや生理用品の使用，衣服の着脱，化粧など女子トイレの方が男子トイレより汚れる要素が多いこと，トイレの利用時間が長く気になりやすいことなどのためであろう。

『銅像裏』では48人（男性26人・女性22人）から評価が得られた。このトイレは兼六園の6ヶ所の公衆トイレの中で総合評価（8項目の評価を総合した平均値）が最も高く，各項目をみても総じて評価が高い。特に高いのは「外観」で，「設備」「臭い」も高い評価が得られた。「外観」は『案内所横』『桜ヶ岡』とともに木造の和風建築で，特に『桜ヶ岡』『銅像裏』は茶室の待合のように床几を組み込んだり，玉砂利を敷いたり，格子をつけるなど，外観・内装ともに全体的に和風の意匠に統一されている。外観に配慮があることは，特に女性に支持されている。

更に『銅像裏』には光庭がとられており（図4），規模の大きいトイレの場合暗くなりがちな中央部分に自然採光をもたらし，トイレ全体が明るい空間となっている。照度計により照度を測定すると，入口・洗面台付近・通路・ブース内ともに100～200LXの明るさがあり，明るさの分布が一定であった。このように特に不安を感じさせるような暗い空間をつくらないことが必要であろう。この光庭は上記のように採光面で効果があるばかりでなく，通風もよくこれは「臭い」の評価の良さに影響しているであろう。また竹の柵，石などを置き，圧迫感のない余裕のある空間を演出している。

また，「設備」については兼六園の公衆トイレの中では唯一身障者用トイレを設けている。実際に外見上識別できる身障者の利用はなく，女子トイレの混雑時に利用されるだけであったが，当然必要な設備である。身障者用トイレは一般の公衆トイレにおいても設けられている所

が最近ではかなり見られるものの、多くは掃除道具などが乱雑に置かれており直ぐに利用できる状態ではない。身障者用トイレは身障者にとって利用しやすくなっていないからならぬが、一時的にハンディキャップを負っている人々（例えば妊婦や乳児を連れている場合、大きな荷物を抱えている場合、怪我や足の自由がきかないなど）も、もっと気軽に利用できるようになっていくことが理想だと筆者は考える。『銅像裏』のように混雑時などに自由に利用できるように管理されていることは重要なことであろう。

『小立野口』については13人（男性8人・女性5人）から評価を得た。特に「広さ」「明るさ」の評価が悪い。「広さ」には、実測によると和式トイレブース内の広さはおよそ700mm×900mm（内法、ブースによって多少の差がある）である。一般に設計時に基準にされる和式トイレの最小寸法は800mm×1000mm⁴⁾であるが、これよりさらに狭い。また男子トイレは片側のみブースがあるため狭さが緩和されているが、女子トイレでは通路空間が非常に狭くなり、向かい合うブースの外開きドアがぶつかる。利用者数調査で述べたように利用者が少ないため、面積拡大が困難であればブースの数を減らしても全体に広く計画すべきであろう。「明るさ」についても照度の測定（11月30日 16時 晴、ヒアリング調査日と異なる）をしたところ、ブース内は5～20LXとかなり暗く、評価が悪いのは当然といえよう。『小立野口』は内装は比較的配慮されているが、暗いこと、前述の3カ所に比べ建物が古いこと、また入口がわかりにくいことなどから特に女性からは敬遠されがちである。

『長谷池横』では42人（男性23人・女性19人）から評価を聴取した。『小立野口』と同様「広さ」と「明るさ」の評価が低い。広さは『小立野口』よりやや広く、ドアが内開きのため通路でぶつかることはないものの、ブース内の幅がやや狭いこと、内開きのため出入りが困難であ

ることなどが影響しているのであろう。「明るさ」は『小立野口』より更に評価が悪い。照度計による測定でも（11月30日 15時40分 晴）男子トイレでは10LX、女子トイレでは測定不能であった。建物は目につきやすい場所に立地し（隨身坂口の入口付近）、外観は公衆トイレとすぐ判別できるものであるため、暗く狭いトイレであっても利用者は比較的多い。「わかりやすい」により評価が得られたのはこのような理由によるものであろう。

『児童苑前』は4人（男性2人・女性2人）から評価を得た。『児童苑前』は無料区域のため一般の市民も利用している。また、児童苑に散歩に来る園児の利用もあるが、総じて利用者は少ない。評価が悪いのは「広さ」「明るさ」、評価が良いのは「臭い」「汚れ」「管理」である。管理が行き届いているというよりは、利用者が少ないため汚れなどが少ないと見た方が適当だろう。

IV. 長町の公衆トイレの利用実態と評価

長町は、武家屋敷や土塀が比較的まとまって残存している金沢の代表的な観光地で、多くの観光客が訪れている。長町周辺の公衆トイレは『長町御園』『長町緑地』の2ヶ所であるが、観光客が多く訪れる「野村家」「金沢市老舗記念館」内のトイレもよく利用される。ここでは主に金沢市「緑と花の課」管理担当の『長町御園』と『長町緑地』について述べる。これらの設備や観察調査結果を表1、表2に示す。

1. 1日の利用者数

『長町御園』は小公園内にあり、横にベンチが設けられて休憩できるようになっているが、利用者総数は159人（男性60.4%：女性39.6%）で比較的少ない（図7）。利用者の最も多いのは男性は15時から15時30分で13人、女性は10時30分～11時・11時～11時30分で各14人である。11時前後と15時前後以外はほとんど利用者がみ

られない。便器数は男性小便器2基、男性大便器2基、女性便器3基であるが、個数の不足はないと思われる。

『長町緑地』は観光バスの駐車場に隣接して立地しているため、観光バス利用の観光客が多く、公衆トイレ利用者総数は384人（男性62.2%：女性37.8%）にのぼる。利用者は『長町御園』と同様午前と午後には山があり、ピークは男性は10時～10時30分に36人、女性は10時30分～11時に23人である。便器数は男性小便器3基、男性大便器2基、女性便器3基、身障者用1基である。数台の観光バスの発着が重なる場合も多く、女性が男子トイレに入る例も何例かみられることを考慮すれば、便器数はもう少し多い方がよいだろう。

上記の2ヶ所の長町における公衆トイレの利用者は、兼六園と比較し女性の割合が総じて少ない。前述のように長町には『長町御園』『長町緑地』以外に観光客の利用しやすいトイレが、「野村家（トイレは2ヶ所ある）」と「老舗記念館」にもあるが、この3ヶ所のトイレの利用者数を調査したところ（「野村家」平成4年10月22日（木・晴）、「老舗記念館」平成4年11月9日（月・雨）調査）、「野村家」は147人（2ヶ所のトイレ利用者の合計）で男性32.7%・女性67.3%、「老舗記念館」は38人で男性47.4%・女性52.6%で、いずれも女性の方が多くなっている。女性は公園や道路沿いの公衆トイレを避ける傾向にある。急を要する場合以外は上記のような施設内トイレを利用したほうが清潔で安全であると考えているためである。

2. 利用者による評価

長町の『長町御園』『長町緑地』利用者による評価を図9に示す。

『長町御園』の利用者のヒアリングは16人（男性7人・女性9人）に対して行った。評価が高いのは「外観」「わかりやすさ」である。「広さ」「明るさ」の評価はやや低い。「外観」は切妻瓦葺きの和風建築で、景観との違和感が

ない。またかなり目につく場所に立地しており「わかりやすさ」の評価につながっている。

『長町緑地』は41人（男性21人・女性20人）から評価を得た。『長町御園』と同様に「広さ」「明るさ」の評価が低く、「外観」「わかりやすさ」の評価が良いが、『長町御園』よりどの項目も相対的に評価が良い。「明るさ」の評価に男女差がみられる。これは、照度を測定したところ（11月7日 くもり）男女とも入口は1500 LXと非常に明るく、また洗面台付近も300～400

図7 長町1日の利用者数

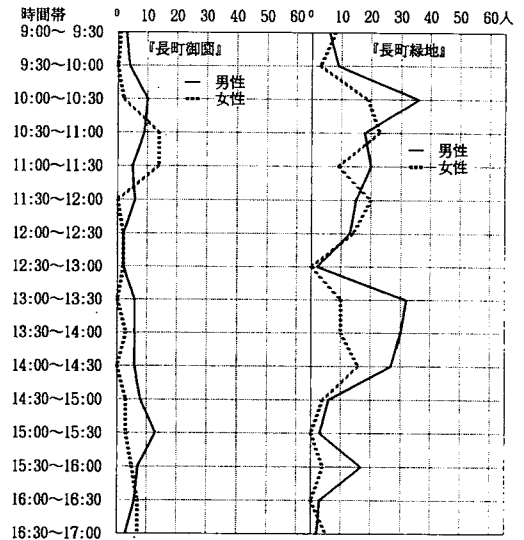


図8 『長町緑地』平面図

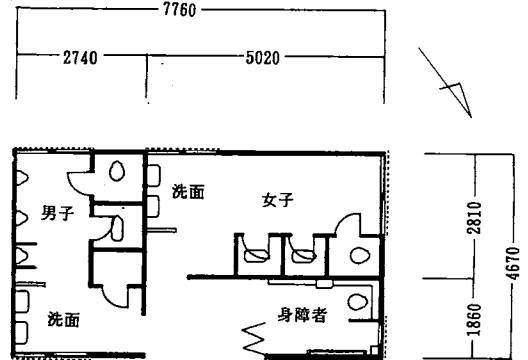


図9 長町・寺町利用者による評価平均値

	長町 『長町御園』				長町 『長町緑地』				寺町 『妙立寺』			
	全体 (16)	平均値 (16)	男性 (7)	女性 (9)	全体 (41)	平均値 (41)	男性 (21)	女性 (20)	全体 (59)	平均値 (59)	男性 (30)	女性 (29)
広 さ		2.6	2.0	3.0		2.8	2.8	2.8		2.9	2.8	3.0
明るさ		2.6	2.1	2.9		2.7	3.5	1.9		3.1	3.0	3.0
汚 れ		2.9	2.7	3.0		3.7	4.0	3.4		3.4	3.3	3.4
臭 い		3.8	3.9	3.7		4.2	4.5	3.8		3.7	3.2	4.2
設 備		3.6	3.3	3.9		4.2	4.0	4.4		3.5	3.4	3.7
管 理		3.2	2.7	3.6		4.1	4.0	4.2		3.6	3.5	3.8
外 観		4.5	4.7	4.3		4.7	4.8	4.6		4.3	4.1	4.4
わかりやすさ		4.5	4.3	4.7		4.6	4.3	4.9		4.1	3.6	4.6
総 合		3.4	3.2	3.6		3.9	4.0	3.7		3.6	3.3	3.8

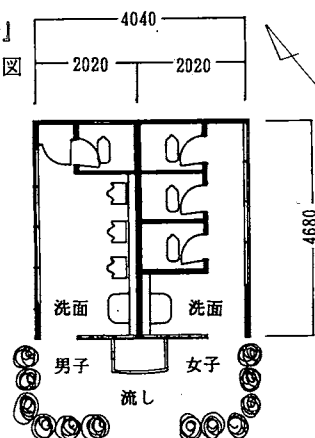
LXあり問題がない。これは建物の奥が壁ではなく広い窓になっており、十分な自然採光が得られるためである。ところが男女とも各ブースは外気に面しておらず、照度計での測定は不能の状態であった。評価に差異があるのは、男性はブースを利用しないが、女性は必ず利用するためである。ブース内の明るさの改善が必要であろう。

V. 寺町の公衆トイレの利用実態と評価

寺町は寺院が多数集まっており観光客も多い。しかし公園や道路沿いなど、あるいは無料施設内トイレなど観光客が自由に利用できる公衆トイレがない。そこで、寺町を訪れる観光客のほとんどが必ず立ち寄るのが忍者寺の名で知られる「妙立寺」であるため、「妙立寺」の公衆トイレとその利用者について調査を行った。「妙立寺」の拝観は予約制のため一度に入れる人数の制限がある。

1. 1日の利用者数

『妙立寺』の1日の利用者は402人(男性61.9%・女性38.1%)である(図11)。男性の利用

図10 『妙立寺』
平面図

者数が最も多い時間帯は14時～14時30分の28人、女性は11時～11時30分の27人で、午前と午後には山がみられるが、入場制限をしているため多くの利用者が集中するということはない。しかし、男子小便器は3基、大便器が1基、女子便器が3基であるがピーク時には混雑するだろう。問題は便器数よりも洗面台の数である。洗面台が男女とも1基ずつであり、特に女性は手洗いの他化粧直しなど洗面台の占有時間が長く、ブースよりも洗面台の混雑が予想される。

妙立寺は忍者寺と呼ばれ、建築的なからくりで有名であることもあり、調査日は車椅子使用

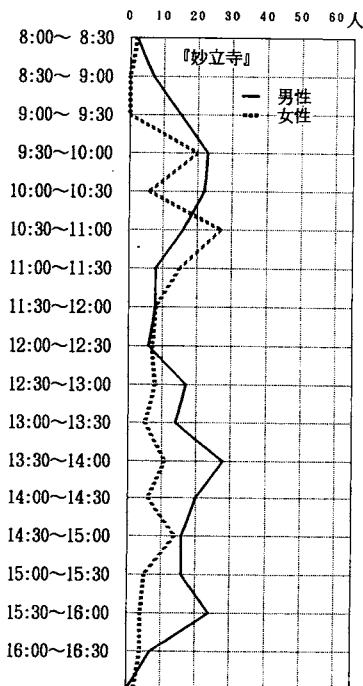
者などの拝観は観察されなかった。しかし高齢者の拝観は多く、トイレは身障者用を設けなくても、やや余裕のある広さにすることや、少なくとも手すりが設けられていることが望ましいだろう。

2. 利用者による評価

『妙立寺』では59人（男性30人・女性29人）に対してヒアリングを行った（図9）。特に評価が良い項目、あるいは悪い項目はないが、比較的评价が良いのは「外観」で、悪いのは「広さ」である。「外観」の評価が良いのは、切妻瓦葺きで下見板貼り、格子をつけるなど妙立寺に隣接していても違和感が感じられず、また生け垣によって見え隠れし、景観との調和がはかられているためであろう。

VI. 総括——金沢市観光地の公衆トイレの利用実態と評価

図11 『妙立寺』1日の利用者数



1. 兼六園・長町・寺町の公衆トイレ（9ヶ所）の利用実態と評価

金沢市内の観光地にある9ヶ所の公衆トイレ（社寺のトイレを含む）を対象に行った、観察調査、1日の利用者数調査及び利用者に対するヒアリング調査より、いくつかの問題点が把握できた。

特に最も問題であると感じたのはトイレ全体及びブースの狭さで、全ての公衆トイレにおいて不満がみられた。特にブース内の狭さに対しては不満が高い。ブースの広さの評価はドアが外開きか内開きかが影響する。一般に公衆トイレは通路空間の節約、通路にいる人に対する危険防止、防犯上トイレ未使用時にドアが閉じられた状態にしないなどの理由で内開きが採用される。しかし内開きドアの場合出入りが大変困難であるため、内開きドアの場合はよりブース内の広さやドア幅が要求されるだろう。また、公衆トイレでは住宅内のトイレ以上に壁などに体が触れるのは不快であるし、住宅内では何も持たないで入るが外出先では荷物をもって入るのが女性の場合一般的である。このような理由からもブースの広さはより広く計画されねばならない。推奨されるべき面積や寸法については、今回の調査では明らかにできなかった。

洗面台付近や通路が比較的広くとられている『桜ヶ岡』『銅像裏』ではやや良い評価が得られ、特に女子トイレでは混雑時に通路に人が並ぶことも多く、また洗面台では手洗いの他化粧なおしなど1人の占有時間が長い時間、洗面台付近や通路を広くとることは有効であろう。

設備の個数についても問題が多い。立地条件により利用者数が異なるため、特に利用者数が多い場所や一時に集中する可能性の高い場所は個数を多く計画すべきであろう。便器数だけでなく洗面台の個数も配慮すべきで、特に女子トイレは前述の広さと同様の理由で数を充実させねばならない。

また今回の調査では外観が和風のデザインのもので多く、景観との調和を図っており利用者

の評価も高い。従来の公衆トイレと一見して識別できる建物は遠くからもわかりやすいという利点はあるが、公衆トイレを快適で魅力ある都市施設にするためには外観の意匠も重要であろう。

トイレの明るさもその快適性に関して重要な要因である。入口付近が暗い場合は不安感を感じさせるため敬遠されがちである。入口だけでなく特に暗い部分をつくらないことが必要である。『銅像裏』のように暗くなりがちで中央部分を、光庭をとることで採光や通風のみならず雰囲気をつくることにもよい効果を表している。明るさは照明器具に頼りすぎず、明るく開放的な雰囲気をつくるために上手に開口部を利用すべきであろう。『長町緑地』ではブースの明るさには問題があるが、入口から洗面台付近（女子トイレ）、あるいは洗面台から小便器付近（男子トイレ）にかけては非常に明るい空間になっている。これは洗面台横と小便器横に自然採光が十分入るように窓を広くとっているためであり、このことは維持管理のためのランニングコスト削減にも役立つものである。このような工夫をもっと他でもすべきである。

2. 金沢市観光地の公衆トイレ（74ヶ所）の評価

表2に示すように金沢市観光地の公衆トイレ及び公衆トイレ化している施設内（社寺などを含む）トイレ74ヶ所を対象に、観察調査により評価を行った。8つの評価項目について5段階で評価点をつけ（評価点のつけ方はヒアリング調査と同様である）、その合計点によって評価の良いものから順に示している。

今回ヒアリング調査及び1日の利用者数調査を行った公衆トイレの中では、最も評価がよい『銅像裏』で22位、次いで46位『桜ヶ岡』『妙立寺』『長町御園』、52位の『案内所横』、63位『長谷池横』、67位『児童苑前』『長町緑地』、そして最も評価の低かったのは『小立野口』で73位となり、総じて評価が低い所が多い。

評価が高いのは施設内トイレなどで、評価の低いのは公園のトイレに多い。つまり維持管理の責任の所在が明確な場合や、利用可能な時間帯には常時人がいて目が行き届きやすい所が評価が高く、夜間も自由に人が出入りでき、管理者も付近に常駐していない場合には管理状態が悪くなりがちになるといえるだろう。しかし、夜間閉鎖されるということもあるが『銅像裏』のように外観や内装などに配慮されたものは良い評価が得られるということもあり、今後公園などの公衆トイレでは、管理を徹底するだけでなく、建築計画的な配慮をすることにより、利用しやすい公衆トイレが実現できるだろう。

Ⅶ. トイレの様式の志向

従来住宅用のトイレは和式大便器と小便器の組み合わせが一般的であった。しかし戦後の混乱期の時代が過ぎ経済的に余裕が出てくると、生活の洋風化の現象がみられる。これは戦後の占領期にアメリカが日本の文化に与えた影響が大きい。この時期以降高度成長期を経て食生活・衣生活の洋風化とともに住生活の洋風化がすすみ、家事が軽減され、暖房方式が変わり、起居洋式の洋風化、すなわち椅子座の普及がみられ、家電製品・ガス器具の普及、応接セット・食卓セット・椅子式勉強机などの洋風家具の導入がすすみ、住宅全体が洋風化していった。トイレについても洋式便器が導入され、年々その数は増加し、逆に和式便器は年々減少傾向にある⁴⁾。

このように住宅では洋式化がすすんでいるが、公衆トイレでは身障者用トイレ以外はあまり洋式トイレは採用されない。そこで、人々は公衆トイレに和式か洋式かどちらを望んでいるのか調査を行った。調査は公衆トイレ利用者に対して行ったヒアリング調査による。調査対象は『案内所横』『桜ヶ岡』『銅像裏』『小立野口』『長谷池横』『児童苑前』『長町御園』『長町緑地』『妙立寺』利用者320人（男性168人・女性152人）で、20代9人、30代71人、40代74人、50代80人、

60代以上57人である。

1. 家庭のトイレ

家庭のトイレの様式は（有効回答総数307）、和式トイレの人は23.8%（73）、洋式トイレは65.5%（201）、和式と洋式の両方ある人は10.7%（33）となり、本調査においても住宅の洋式トイレ化はすすんでいるといえる。

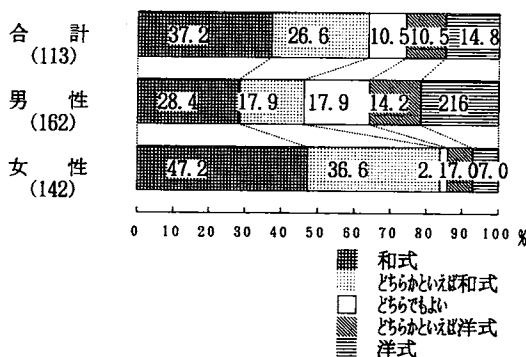
そこで、家庭のトイレが和式あるいは洋式である理由を自由回答方式で尋ねたところ、和式トイレの場合は「元々の設備が和式であったから」という理由がほとんどであるが、洋式トイレの場合は和式と同様の理由が全体の半数程度、次いで「姿勢が楽だから」が2割、その他「年をとったから」「衛生的だから」などの理由による。和式洋式両方のトイレがある人は「家族員それぞれの嗜好によって」両方の設備を備えていると回答している。

2. 公衆トイレの様式の志向

家庭のトイレは前述のように多くが洋式トイレであるが、公衆トイレについてはどちらを望んでいるのであろうか。「公衆トイレで和式・洋式の両方がある場合どちらを使うか」という設問で、選択肢は「和式」「どちらかといえば和式」「どちらでもかまわない」「どちらかといえば洋式」「洋式」とした。

全体では（有効回答総数304）（図12）、「和式」

図12 公衆トイレの洋式志向



を使う人は36.8%、「どちらかといえば和式」は26.4%、「どちらでもよい」は10.4%、「どちらかといえば洋式」が10.7%、「洋式」が14.7%となった。和式を選択する人は全体の6割をこえ、公衆トイレでは洋式が敬遠されがちである。

男女別にみると（有効回答数 男性：162・女性：142）、「和式」は男性28.4%・女性47.2%、「どちらかといえば和式」男性17.9%・女性36.6%、「どちらでもよい」男性17.9%・女性2.1%、「どちらかといえば洋式」男性14.2%・女性7.0%、「洋式」男性21.6%・女性7.0%である。男性の5割弱に比べ、女性は8割以上が和式を選択しており、特に女性が公衆トイレで洋式を使用することに抵抗があることがわかる。

年齢層でみると（図13）、洋式トイレを利用するのは、調査数の少ない20代未満を除くと、年齢が上がるに従い和式より洋式の利用が多くなる。20代では「洋式（どちらかといえばを含む）」を選択しているのは19.8%、30代11.1%、40代17.8%、50代24.0%、60代以上47.1%となり、30代以降年齢があがるに従い洋式トイレの利用が多くなる傾向がみられる。

また、公衆トイレで「和式」を選択するのは、家庭が「和式」トイレである場合の68.1%、家庭が「洋式」の場合の60.3%、家庭が「両方」ある場合の75.8%である。公衆トイレで「洋式」を選択するのは、家庭が「和式」の場合の15.3%、「洋式」30.7%、「両方」18.2%となり、家庭に洋式トイレがない場合は洋式トイレを選択するものは少ない。全体的には高齢になるに従い「洋式」を利用する傾向がみられたが、家庭が「和式」の場合は年齢が高くなっても洋式トイレを選択する人は少なく、家庭が「洋式」の場合はあまり抵抗なく公衆トイレで「洋式」を利用している。

さて、公衆トイレで各々の様式を選択した理由を聴取した（図14）（有効回答総数306）。選択肢は「慣れているため」「使いやすいため」「混んでいるため」「抵抗があるため」「不潔な

図13 公衆トイレの洋式志向・年齢層別

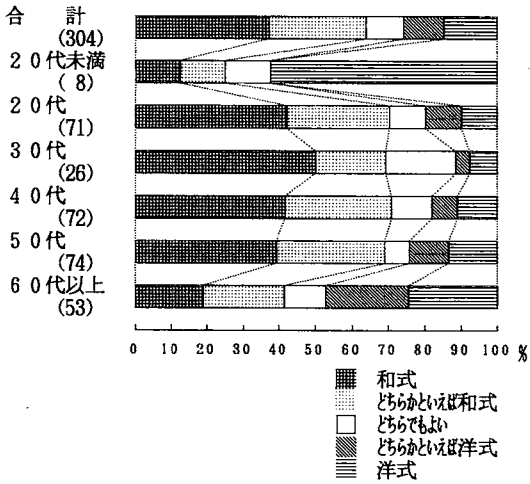
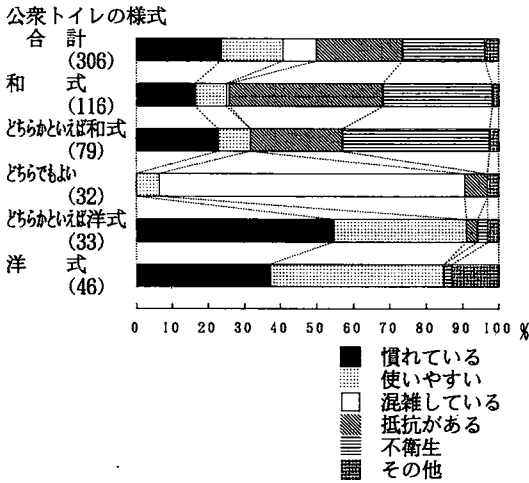
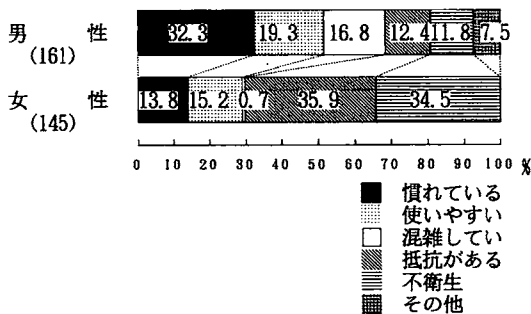


図14 公衆トイレの洋式志向の理由



公衆トイレの洋式志向の理由・性別



ため」「その他」である。全体では「慣れている」「混んでいるため」と回答した人が各々23.5%、「不潔なため」が22.5%、「使いやすい」が17.3%であった。公衆トイレでは和式を利用したいと考えている人では、洋式トイレが「不潔」で「抵抗がある」という回答が多い。公衆トイレで洋式を利用すると回答した人では「慣れている」「使いやすい」のが主な理由となっている。和式・洋式のどちらでもよいと考えている人は「混んでいる」ため空いている方を抵抗なく利用するという理由が大勢である。

また、不潔感や洋式に対する抵抗は女性の方が強い。男性は「慣れている」という回答が多く、公衆トイレの様式のかかわりなく家庭のトイレの様式に影響を受ける傾向がみられる(図15)。

以上から、家庭のトイレは洋式である世帯が多いが、公衆トイレには洋式に対する抵抗感が強く、和式を希望する人が多い。特に女性はこの傾向が強い。また年齢層別にみると、年齢が高くなる程洋式を利用する人が多くなる。これは姿勢が楽で使いやすいことによるだろう。

金沢市の観察調査を行った観光地の公衆トイレでは和式がほとんどであり、洋式トイレがある場合は和式も併設されているため、利用者のニーズにこの点では合致している。しかし洋式トイレを望む人、あるいは和式トイレでは不衛生な人が少なからずおり、洋式トイレも必要であろう。この場合に最も問題となるのは不潔になることで、例えばシートペーパーの設備など配慮されねばならない。

VIII. 有料トイレについて

公衆トイレは不特定多数の人間が利用するため、汚れるのを避けられないし、故障などもおこる可能性が高い。また立地条件などにより非行の場になることもある。公衆トイレを何時でも安全に快適に利用できるように維持管理することは重要なことである。公衆トイレの維持管

理は公衆トイレの設置場所の持ち主が行うのが一般的である。公園などの公衆トイレより個人の住宅内、あるいは施設内のトイレの方が管理が行き届いていることが、観察調査で認められた。

トイレを快適に安全に維持管理するために、有料にするということが考えられる。日本でも有料トイレが徐々にではあるが増えつつあるが、日本ではチップの慣習がなく、一般にはサービスには料金を払わないという認識が強い。特に自治体の管理するものについては税金を既に支払っているという考え方が大勢であろう。しかし快適なサービスを受益したいならば、その維持管理のための料金を支払うことも考えねばならないだろう。

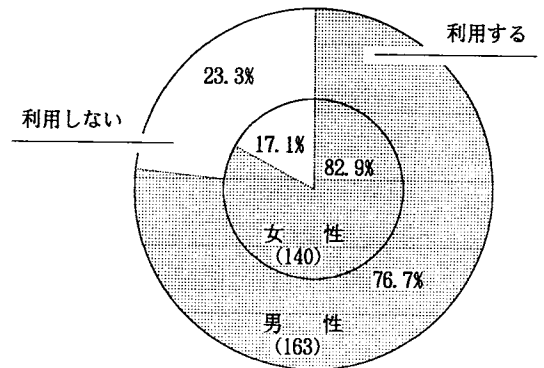
そこで、有料トイレについて意見を聴取した。調査を行ったのはヒアリング調査対象者と同様で合計303人、男性163人、女性140人である。

「快適であれば有料トイレを利用するか」という設問に対して（図16）、「利用する」と回答したのは79.5%、「利用しない」と回答したのは20.5%で、8割の人が有料トイレに肯定的である。特に女性に強く支持されており、「利用する」と回答したのは男性では76.7%であるのに対し、女性では82.9%にのぼる。また、年齢が高くなる程「利用する」と回答した人が多くなる傾向がみられた。

有料トイレを「利用する」と回答した人に対してその理由を自由回答で聞いたところ、「快適なら有料でもよい」が約半数、「設備や管理にお金がかかるから支払う」が2割弱と積極的に肯定している人が6.5割以上ある。「他になければ利用する」という消極的な理由は約3割程度である。性別による明確な差異は見いだせなかった。年齢層でみると、40代以上では積極的な理由が多いが、20代未満と20代では「他になければ」という理由の方が多くなる。

さて、前述のように有料トイレを利用したいという人は多いが、何円だと妥当と考えているのであろうか。実際の有料トイレの1回の使用

図16 有料トイレの利用



料は、例えば埼玉県蕨市営駅前トイレは50円、JR新宿駅パウザ・ディ・クロマはチップ制、JR新宿駅東口有料トイレは100円、横浜市相鉄ジョイナスのマーブルポケットは300円というように経営主体や設備・サービスによって様々である。そこで「いくらなら支払ってもよいか」という設問を行い、選択肢を「30円以下」「50円以下」「100円以下」「200円以下」「300円以下」「300円以上」「任意」としたところ、最も多いのが「100円以下」で40.4%である。次いで「50円以下」で26.3%、「30円以下」が13.8%となる。性別では男女ともほぼ同様であるが、やや女性の方が金額の設定が低い傾向がみられた。

金沢市ではまだ有料トイレはないが、前述のようにその要求はかなりみられる。つまり、現在の公衆トイレに不満が高いためであり、その改善が必要であることは確かだ。またその維持管理に経費がかかることも事実であり、より設備の整った、快適で安全なトイレを実現するためには有料トイレの存在も必要であろう。

しかし特に自治体のトイレについては、その経済的な負担をさらに市民が負うことの是非を問わねばならないだろう。その前に現在よりもっと予算を当てるべきであろうし、有料トイレは快適であるが無料のトイレは不潔で危険である

という状態は決して良くない。

おわりに

金沢市観光地にある公衆トイレ及び公衆トイレ化しているトイレとその利用者に対して調査を行った結果、本文で述べたようにいくつかの問題点が明らかになった。これらの問題点が存在する根本には、公衆トイレの設置や管理者が公衆トイレに対してほとんど意識していないということがある。そのため利用者数や性別などの実情に見合った設備の設置や、利用しやすい広さやデザイン、防犯上の工夫や不安感の解消などに対して配慮されていない場合が多い。

また男性は利用者側もトイレの快適性をあまり意識しない場合が多いが、今回の調査で女性の不満が高いことが明らかとなった。公衆トイレは一般にその計画段階から管理まで男性のみでなされるため、女子トイレに対して特別な配慮もなく男性トイレと同程度の規模や設備となっている。しかし女性は公衆トイレで過ごす時間が長く、化粧や衣服・靴下などの着かえなど多くの行為が行われ、また荷物も男性よりは多くなりがちである。さらに乳幼児を連れてくる場合もあり、男性トイレと同様に考えるべきではない。最近では女性客の多いデパートなどでは女子トイレに様々な機能をもたせ、快適に利用できるものも増えつつある。公衆トイレももう少し女性に対して配慮すべきだろう。

今回は観光地の公衆トイレを選定したため外観には配慮したものがみられた。しかしその他の点では問題も多い。観光地以外（公園や道路沿いなど）の公衆トイレでは、より問題も多いと予想される。女性や子ども・高齢者・身障者にとっても快適で美しい公衆トイレが実現すれば多くの人々が利用しやすくなり、その結果公衆トイレに人が集まりやすく、防犯上の効果も大

きい。清潔で美しく管理されたトイレでは、利用者のマナーも向上するだろう。プライバシーを守りつつも、従来の公衆トイレの閉鎖性・密室性を解消し快適な公衆トイレをつくることは、これまで公衆トイレが問題視されてきたいくつかの点の改善につながるだろう。

観光地の公衆トイレに限らず多くの公衆トイレが快適なトイレに改善されることを期待したい。

末筆ながら、資料の収集や調査にご協力いただいた石川県兼六園管理事務所、妙立寺、金沢市役所（緑と花の課・観光課・生活環境課）の皆様方に記して謝意を表します。

註

- 1) 昭和58年の1住宅あたりの居住室数は全体で4.73（持ち家5.85・借家2.87）室、昭和63年は4.87（持ち家6.04・借家2.95）室である。延べ面積は昭和58年は全体で85.9（持ち家111.7・借家42.9） m^2 であるが、昭和63年では89.9（持ち家117.3・借家44.8） m^2 に拡大している。
- 2) 「トイレの研究」日本トイレ協会編 地域交流出版 1987 P16
日本人のトイレ占有時間（小用の場合）は、男性31秒（1日平均5.5回）、女性1分33秒（1日平均7.2回）であるという。
- 3) トイレ・洗面所の照度はJISによると100～200 LXとなっているが、公衆トイレの暗いイメージを払拭するためには、これよりやや明るめの方が良いだろう。
- 4) 「トイレの研究」前出 P84
便器の出荷数の推移をみると、昭和30年では和式80%・洋式20%、昭和40年で和式83%・洋式17%となるが、以降著しく洋式トイレが普及し昭和50年では和式54%・洋式46%、昭和60年は和式32%・洋式68%となる。これはオフィスビルなどの公共空間のトイレも含まれており、住宅用では洋式の比率がさらに高くなる。